

意見広告

都立の4大学がはぐくむ教育・研究を破壊する石原都政!

東京都・大学管理本部は、都立大学、都立短期大学、都立科学技術大学、都立保健科学大学の4大学を廃止し新大学を設置するという「都立新大学構想」を強引に推し進めています。秋葉原・城南地区再開発にからむIT・ナノテクなど、「金になる」分野以外は切り捨てていこうという乱暴な大学リストラ案を一方向的に押し付け、任期制・年俸制の導入による雇用の不安定化・経費削減をねらっています。国内外で評価の高い優れた教育・研究者の首切り・人材流

出によって、都立の4大学がつかってきた教育・研究の実績、多様で豊かな文化が破壊されようとしています。都立大で行われたアンケートで、「新大学構想」に反対と答えた学生が86.5%に達するなど、学生からも強い批判の声が上がっています。また、都立大の大学見学会では高校の進路指導担当教員から「新大学構想」に批判的な意見が相次ぐなど、都立4大学が築いてきた受験生の支持もいっきに失うことになりかねません。

都のオーケストラがはぐくむ音楽・文化を破壊する石原都政!

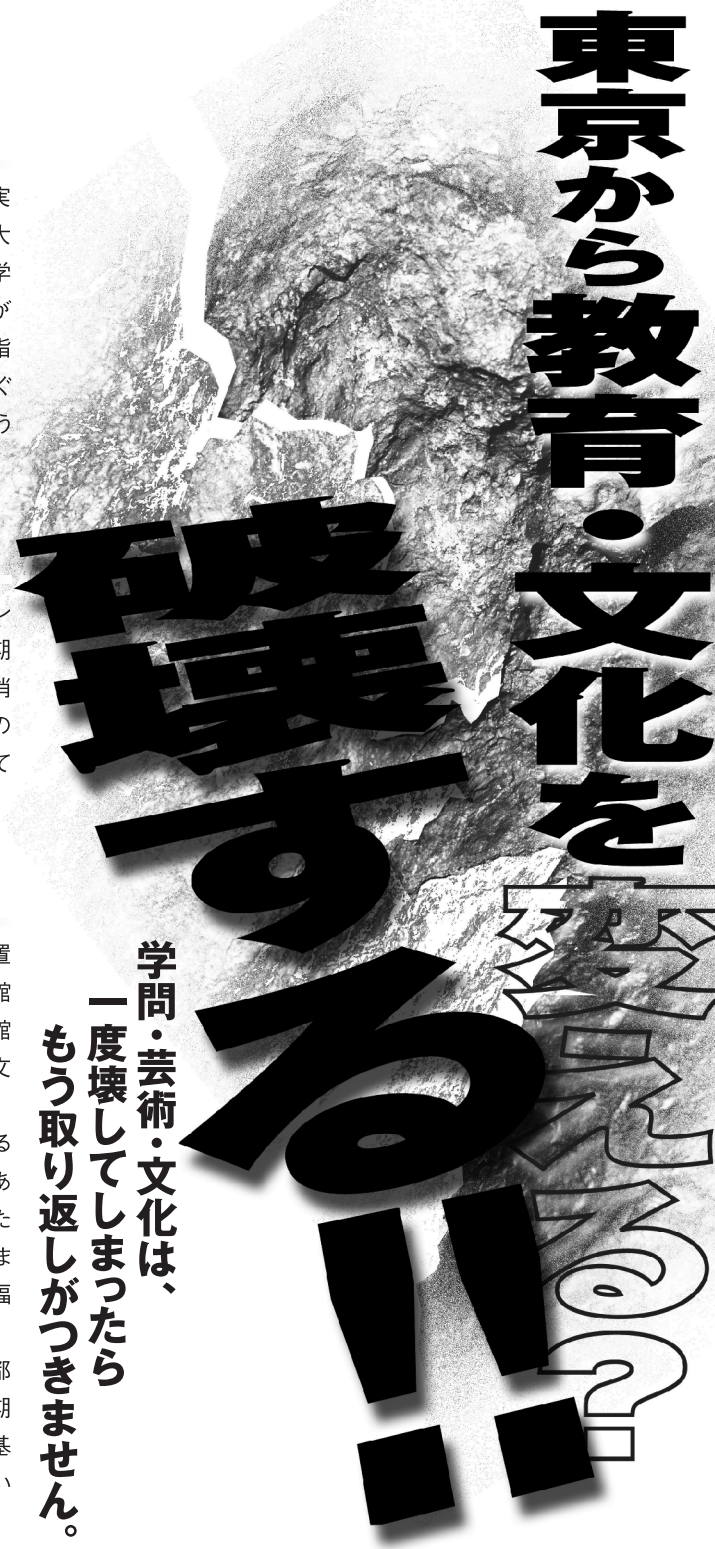
東京都は東京都交響楽団(都響)に対し、楽員全員を解雇し、技術査定をとまなう2年間の有期雇用に切り替える方針を打ち出しました。いかにも音楽家には有期雇用のふさわしいというイメージが持たれやすいのですが、音楽家の「集団」であるオーケストラにおいては、実はとても不幸な制度なのです。すてきなオーケストラをつくり、また、そうあ

りつづけるためには、何と言っても、長い時間をかけたアンサンブル作りとチームワークが必須なのです。もし、有期雇用制度が導入されてしまったら、オーケストラにとっては消滅に向かう下り坂に足を踏み出すことになるのです。このことは200年の永きおよびオーケストラの歴史が証明しています。

都立施設がはぐくむ教育・文化を破壊する石原都政!

石原都政が誕生した翌年の2000年以来、東京都教育委員会の社会教育施設が次々に廃止または縮小されています。
[2000年度] 五日市青年の家廃止、多摩教育研究所廃止
[2001年度] 近代文学博物館廃止、生涯学習センター廃止、多摩社会教育会館市民活動サービスコーナー廃止、八王子青年の家廃止、青梅青年の家廃止、狭山青年の家廃止、武蔵野青年の家廃止、文化4施設(東京文化会館、東京都美術館、東京芸術劇場、東京都現代美術館)の生活文化局への移管、都立図書館の図書14万冊の除籍
[2002年度] 多摩スポーツ会館閉館(昭島市に移管)、夢の島総合体育館閉館、多摩社会教育会館の機能縮小
[2003年度] 水元青年の家廃止、高尾自然科学博物館閉館(八王子市に移管予定)
[2004年度] 府中青年の家廃止(予定)
凄まじいばかりです。
生活文化局に移管された芸術劇場は1990年に、現代美術館は1994年に、また廃止された生涯学習センターは

1991年に、それぞれ東京都教育委員会の施設として設置されたばかりです。また、2003年度に高尾自然科学博物館が廃止されれば、東京都教育委員会として所管する博物館は全てなくなることになります。あまりにも社会教育行政、文化行政に対するトータルなビジョンがなさすぎます。
これらの中には青年の家のように新しい施設を設置するのに伴って廃止になったものや、市に移管されたものもありますが、東京都教育委員会としてこれまで蓄積してきた実績やサービスが引き継がれていると言い切ることはできません。教育委員会として採用・雇用してきた専門職も大幅に減らされています。
広く都民に学習の機会と文化を提供するために、東京都教育委員会が実施してきたこれらの事業をこれほどの短期間で次々と廃止、縮小してしまうということは、憲法や教育基本法で定められている学習権の保障をないがしろにしていると言われても仕方がないでしょう。



学問・芸術・文化は、一度壊してしまつたらもう取り返しがつきません。



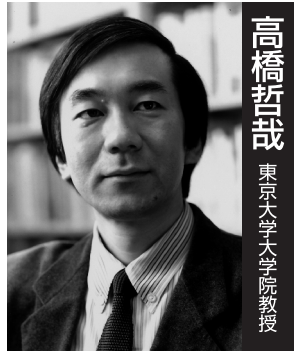
山口二郎 北海道大学教授

なぜ学問の自由と大学の自立が必要なのでしょう。それは、世の中のありように対する批判的な分析と提言が、為政者を含む社会全体の健康にとって不可欠だからです。為政者の都合で大学を引きずり回し、為政者好みの学者に、為政者好みの研究をさせると、世の中全体がどうなるかは、すでに滅び去った社会主義国家や戦前の日本を見れば明らかです。我々にしろ、都立大学の権力的改変は、決して他人事ではないのです。



鮫島有美子 ソプラノ歌手

演奏者が「流浪の民」では音楽や音の色は、一緒に音を奏でる仲間と共に作り上げられるものです。オーケストラの場合それは特に、長い年月をかけて育っていく、育てていくものではないでしょうか。世界都市、東京に数多くのオーケストラがあることは確かですが、都民のためのオーケストラはひとつしかありません。演奏者が「流浪の民」のように他へ流れていかざるを得ない状況を生み出すことは、都民に愛され続けてきた都響の音や活動のもとを絶つてしまうことにつながるのではと懸念しています。



高橋哲哉 東京大学大学院教授

石原都知事の都立大学「改革」計画を知り、開いた口がふさがらなかつた。そのあまりに二方的で乱暴なやり方は、ヒトラーのそれを連想させる。私は専門の関係から、都立大の哲学、文学など人文系諸学科が、いかに高い教育・研究レベルにあるかをよく知っている。それらを狙い撃ちにした「改革」案が、およそ学問・文化とは無縁の動機から出ていることは明白だ。石原都知事は名を惜しむなら、歴史的汚点となる都立大学「改革」案を撤回すべきだ。

経営効率・採算偏重の、石原都政による文化・教育の切り捨てに私たちは反対し、首都・東京に恥じない学問・芸術の振興・充実を求めています。皆様の声を以下にお届けください!
東京都 都民の声総合窓口：
<https://aps.metro.tokyo.jp/tosei/aps/tosei/mail/koe.htm>
東京都議会文教委員会委員：
<http://www5.ocn.ne.jp/~union-mu/bunnkyomen.htm>

東京都立大学・短期大学教職員組合委員長 山下正廣

東京都立大学・短期大学教職員組合

日本音楽家ユニオン オーケストラ協議会 ユニオン都響

東京都庁職員労働組合 教育庁支部

TEL: 0426-77-0213 FAX: 0426-77-0238
<http://www5.ocn.ne.jp/~union-mu/> e-mail: union@apricot.ocn.ne.jp

TEL: 03-3821-0360 FAX: 03-3821-5224
e-mail: tmso_union@yahoo.co.jp

TEL: 03-5320-7414 FAX: 03-3342-1516

2月28日(土)3:30p.m.より日比谷公会堂で集会があります。皆様のご参加をお願いいたします。詳細は「都立の大学を考える都民の会」ホームページ：<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Lounge/3113/>